

皆様 お元気ですか 気温が20℃くらいまで上がる日も増えてきてヨーロッパ旅行に最適な季節になりました。コロナ前は日本のGW期間中は旅行者も多く、観光案内も殺到して多忙な時期でした。今年4月以降日独共にコロナに関する各種制限が緩和・撤廃されたのですが、自粛がすっかり日常となってしまった為でしょうか、観光・ビジネス共に日本からの旅行者はまだ少ないドイツです。ただ、過去の幾度かあった鳥インフルエンザなどでの旅行需要の落ち込みの後、翌年以降の回復は以前を上回る傾向にあることが繰り返されているので来年以降の回復は期待できそうです。

日本の祝祭日数は16日あり、これは世界的に最多です。そこで今月はドイツの祝祭日はいくつあるのか、各祝祭日についてご報告いたします。

2022年 ドイツの祝祭日

1月1日 新年は1日だけが祝日です。今年は土曜日でしたので2日の日曜日のあと3日からはすべては平常通りに戻るのがドイツです。

1月6日 三賢者の日 バイエルン州などカトリック系の3州だけの祭日です。キリストの生誕を知って東方から三人の賢者がお祝いにベツレヘムに来たことを称える祭日です。クリスマスや新年の飾り付けはこの日まで残しておきます。工場などではこの日までラインを止めて休業することもあります。



生誕を祝う三賢人たち

4月15日 復活祭 イースター 聖金曜日

キリストが死んで三日後に復活したのが日曜日だったということで、イースターの日付は春分の日以降、最初の満月から数えた最初の日曜日と定められています。従って日付は毎年変わります。生命の誕生のシンボルである卵や、繁殖の象徴であるウサギをかたどったチョコなどを飾ります。夕食は肉以外のものを食べることになっています。

ドイツ語ではOster（オースター）となります。

4月17日 復活祭月曜日

金曜日と土日ははさんでこの月曜日まで4連休となります。多くの人が前後1-2日自身の休暇足して一週間くらい休みます。年末年始から夏休みまでの中間で、ちょうど日本のGWのような感じで家族旅行に出る方も多いです。



ウサギのチョコ、イースター後は安売りされます。 卵は豊穰、復活 繁栄などの象徴

5月1日 メーデー

夏の到来を祝う行事だったのが、この日は労使双方が休戦したので、近代になって労働者の日として休日に制定する国が徐々に増えていったようです。英国、オランダ、スイスなどは日本同様休日ではありません。日本でも休日とする意見があったようですが、4月29日が昭和の日、5月4日がみどりの日に制定され、別に11月23日の勤労感謝の日が存在することから現在は休日制定の意見は下火となっているそうです。



村の広場に立てられるお祝いのシンボルはマイバウムといひます。5月1日のお祭りに向けて飾り付けを準備するのですが、準備期間中はこれを盗んでも良いことになっています。盗られるとその村はお金を払って買い戻さなくてはなりません。実際に取られることも過去にあったのですが、20mもある大木で運搬などの危険も有るため、現在は法律が改正され、準備中のマイバウムに手を触れただけで盗みが成立することになりました。つまり買い戻さなくてはなりません。この為どの村でも準備の間は交代で警備をします。

5月26日 キリスト昇天祭

復活祭の日曜日から数えて40日後、今年は5月26日となります。聖書にキリストが復活してから40日間弟子たちの前に現れ、天国に行かれたという記述が数か所あり、人の姿をしていたキリストが神様の栄光に入られたことを祝う祝日となりました。

6月6日 聖霊降臨祭月曜日

上記キリスト昇天祭の日からさらに10日後、今年は6月6日です。イースターから50日後となります。キリストが昇天する際に、10日後に聖霊が降りてくると予言し、その通りになったことから祝日に定められています。キリスト教会ではこの日までがその年のイースター期間と定められています。

面白いことにこの日がドイツでは父の日に定められています。一般的な6月の第三日曜日

ではありません。さらに変わっているのはこの日は男性同士だけで集まってパーティをすることです。なぜこの日が父の日になったのかはよく判っていません。

6月16日 聖体際

フランクフルトが属するヘッセン州をはじめ6つの州で祭日に制定されています。本来カトリック系の行事ですが、ルーテル教会などプロテスタント系の教会でも行事としている為、プロテスタント系とされるヘッセン州や旧東ドイツの州でも祭日となっています。これも降臨祭の翌週の木曜日と定められているので日付は毎年変わります。この祭日の起源はキリストが弟子たちとすごした最後の晩餐で供されたパンとワインに関連します。キリストは弟子たちにパンとワインを自身の体と血に喩えて、自分が居なくなってもいつでも共にいることができると諭します。この日パンとワインを頂きながらキリストの体（聖体）と共に居られることを祝います。



聖霊降臨祭のお祝いの隊列



聖体祭のお祝いの隊列



男だけでパーティする変な父の日



ダビンチの最後の晩餐 現物はミラノの修道院内

10月3日 ドイツ統一記念日

1990年10月3日、東西ドイツが再統一されたことを記念する祝日です。当時の西ドイツではベルリンの壁が崩壊した11月9日を祝日に制定していたのですが、この日はユダヤ人弾圧の象徴とされる水晶の夜という事件の日でもあった為、祝日にふさわしくないとされ、10月3日に変更された経緯は以前にご報告しました。

11月1日 万聖節

カトリック系の5州で祭日となっています。835年ローマ教皇グレゴリウス4世の布告によってすべての聖人、殉教者を記念する祭日に定められたことから、イースターの諸祭日と違って固定されています。静かに過ごす日とされ、この日音楽イベントなどの開催は禁止されています。多くのドイツ人がご先祖さまの墓参をするので、私はドイツ人に日本のお盆に関する説明をするとき、この万聖節のようなものだと言っています。



早いもので今年は再統一32年です
分断期間28年よりも長くなりました。

キャンドルで飾られた墓地
一般人のお墓は通常50年借用契約

12月25日 26日 クリスマス

説明の必要はありませんね、ドイツでは26日も祭日です。24日のイブは家族と過ごして25日26日は友人知人とパーティというのが一般的な過ごし方です。キリストの誕生日を祝う行事ですが、ゲルマン人が本来祝ってきた新年を喜ぶ行事の要素が合体、融合されていることは前にもご報告しました。森の木の下にお互いのプレゼントを保管しておき、どの木だったかを判別するために飾り付けをしたのは本来ゲルマン人の風習でした。

もう一つ、最後に歴史的なクリスマスの奇跡のお話をしましょう。1914年12月24日夜第一次大戦の最中、英仏軍とドイツ軍が対峙していた西部戦線でのお話です。英仏軍の兵士にドイツ軍の陣地からドイツ軍兵士達がドイツ語できよしこの夜を唄っているのが聞こえてきました。戦場では居場所が判ってしまう危険な歌声です。しかし英仏軍の兵士達は銃砲弾の代わりに英語できよしこの夜を唄って返したのです。両軍の兵士たちは塹壕陣地から出てタバコを交換して、戦死者の遺体を協力して埋葬するなど、束の間の休戦が西部戦線全体で実現したのでした。その後戦争は1918年まで5年間続き1500万人の犠牲者を出してしまいます。クリスマス休戦もその後実現することはありませんでした。今日も戦い続けるウクライナとロシアの兵士、犠牲になるウクライナの人々を思うとき一日も早く戦争が終わることを願ってやみません。

ドイツの全土で制定されている祝祭日は結局10日だけです。ご紹介の他、1-2州だけで制定されている祝祭日もいくつかあります。日本は祝祭日天国？残念ながらそうではありませんね、欧州各国では有給休暇30日、業種、役職ランクに関わらずその100%消化が当たり前です。出張申請のごとく、何の負い目もなく休暇を申請、取得するのが普通です。このお話はまた別途ご報告いたしましょう。